

山梨県産業安全衛生大会が開催されました！

平成30年10月2日、山梨県立文学館講堂において「平成30年度山梨県産業安全衛生大会」が約350名の参加により、盛大に開催されました。

大会では安全衛生に係る優良事業場等に対して山梨労働局長表彰が贈られるとともに、安全・健康・快適な職場を実現するため、県内全ての関係者が一丸となって、労働災害防止に全力を挙げて取り組むとした「大会宣言」が採択されました。

また、『治療と仕事の両立支援』と題した北里大学医学部公衆衛生学教授の堤明純教授の特別講演及び県内事業場等による安全衛生活動に関する事例発表が行われました。



黙祷



主催者：（一社）山梨県労働基準協会連合会 芦沢会長挨拶

主唱者：山梨労働局長 木幡局長挨拶

大会宣言

林業・木材製造業労働災害防止協会 山梨県支部



山梨労働局長 安全衛生表彰

局長優良賞



株式会社 早野組 山梨県医師会館建設工事

局長奨励賞



大蔵電気 株式会社

局長安全衛生推進賞



千頭和 義幸 氏
林業・木材製造業労働災害防止協会
山梨県支部 事務局長



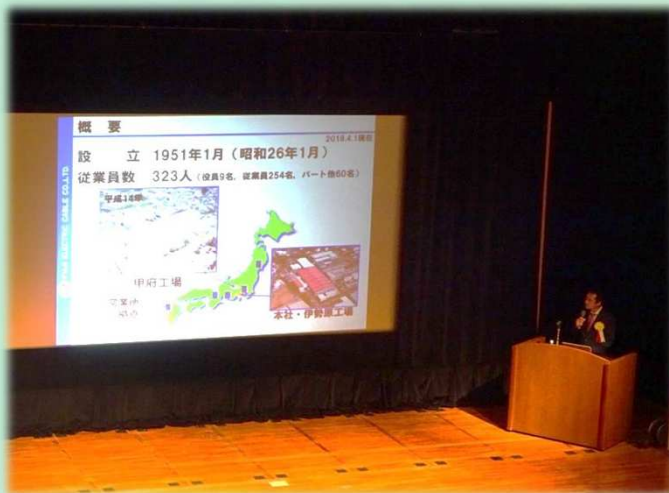
齋藤 忠文 氏
(元)甲府労働基準協会副会長

特別講演

『治療と仕事の両立支援』



事例発表



事例発表 1

「甲府工場 安全活動 概要説明」

富士電線（株）甲府工場
工場長 岡崎 英明氏
（平成29年度：山梨労働局長 優良賞受賞）



事例発表 2

「女性が安全に活躍できる建設業を目指して
~20年の歩みと これからの安全活動について~」
建設業労働災害防止協会山梨県支部
オレンジ隊 隊長 志村 美紀氏 ほか
（平成27年度：山梨労働局長 団体賞受賞）

大会宣言

我が国の労働災害による死亡者数は、3年連続して千人を下回った。しかし、昨年の休業4日以上之死傷者数は10年ぶりに12万人を上回り、労災保険新規受給者数は近年むしろ増加傾向にある等、その社会的・経済的損失は未だ大きな問題となっている。

山梨県内における昨年の死亡者数については前年より3人減少したが、7人の尊い命が失われ、休業4日以上之死傷者数も3年連続して減少したが、726人と目標には遠く及ばない結果となった。

一方、労働者の健康を取り巻く状況は、一般健康診断の結果では受診者の5割以上に何らかの所見が見られ、疾病を抱えながら働いている方は労働人口の3分の1を占めていること、疾病の治療のため仕事を辞めざるをえない方もいるなど、治療と仕事の両立に向けた取組が今後の課題となっている。加えて職場におけるメンタルヘルス不調、過重労働や化学物質を原因とする健康障害が社会問題化するなど、労働者の心身両面にわたる健康対策は、一層重要となっている。

本年度からスタートした山梨第13次労働災害防止計画では、『労働者の安全と健康確保を当然のこととして受け入れていく社会の実現』を目指し、『働く方々の一人ひとりがかけがえのない存在であり、それぞれの事業場において、一人の被災者も出さない』との基本理念を全ての者が共有し、経営トップのリーダーシップの下、事業場における自主的な労働災害防止活動や労働衛生活動の充実、強化に取り組むこととした。

本大会を契機に、安全・健康・快適な職場の実現を目指し、山梨県内の全ての事業者・労働者・関係団体・行政が一丸となって、労働災害防止に全力を挙げて取り組むことをここに宣言する。

平成30年10月2日

平成30年度 山梨県産業安全衛生大会

